町村議会議員特別セミナー　研修報告書

荻原　省三

滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所において、10 月 3～4 日の二日間にわたり、4 つの講義を受けました。参加議員は、北は北海道、南は宮崎県高千穂町からの議員総勢 70 名でした。上伊那からは辰野町より 3 名の議員の出席がありました。

まず、講義 1 番目は「近未来の日本農業と地域社会～政策を考える基本要点～」という事で福島大学食農学類長教授の生源寺（しょうげんじ）真一先生による講義でした。食料自給率と食料自給力の問題を最初に言われ、自給率・自給力ともに低下している現在の事態は非常に深刻な問題であると指摘されました。食品産業は、2008 年リーマンショック直後であっても安定している産業であり、やはり食べ物は人間にとって必需品であるとの説明で自分自身も納得することができました。

2 番目は「内発力は逆境を順境に変える」ということで、長野県川上村長の藤原忠彦村長の講義でした。以前は貧乏村でしたが、今現在は約 500 戸で平均年収 4,000 万円。大型トラクターは 2,000 台余りあるそうです。平成 30 年度一人当たり医療費は 188,023 円で県下一低い医療費であるそうです。川上村文化センターに 24 時間開設している図書館があり、当初は本が盗まれるという心配もあったがそんなことは一度もなく、かえって返却本数が増えているという話になるほどと感心しました。

2 日目最初は「子育てで地域に人を呼び戻す森のようちえんを起点とした取り組み」ということで、NPO 法人智頭町森のようちえん　まるたんぼう理事長西村早栄子先生による講義が行われました。20 代でミャンマーでの留学経験をもとに日本の子育てに疑問を持ち、30 歳でご主人の実家がある鳥取県に移住し、36 歳で 3 人目の育児休業中にまるたんぼうの代表になったそうです。田舎での子育てというのはとても素晴らしくとても満足しているそうですが、当然デメリットもあります。まるたんぼうの特長は「危ない、汚い、ダメ、早く」は禁句で、命令・指示はしない。自分で気づかせることが大事で、指導者については保育終了後は全員でミーティングを行い、経験豊富なスタッフが助言を与えるなどして指導者を育成しています。運営継続には、行政支援が大事なので理解してほしいと訴えていました。西村先生は、最大 5 世帯が暮らすことができるシェアハウスも運営されており、現在 4 世帯が入居しています。31 年度については、移住希望参加 28 人世帯中、移住されたのが 21 人世帯です。まるたんぼうに子どもを預けている家庭は多産になる傾向で、西村先生いわく「お母さんが満たされれば子どもを産んでくれる」とのことでとても参考になりました。

最後は、タビオ株式会社代表取締役会長越智直正会長の「企業活動から見える地域との関わり」という講義でした。靴下専門店全国チェーン靴下屋を一代で築き、現在タビオ株式会社代表取締役会長として現在に至る越智会長のまず第一声が「良い物は安くない」「良い物を安く売るバカはいない」と言われびっくりしました。真剣に考えたら最高のものができるという志をしっかり持ち、想像力が大事で野球をうまくなるためにバッドの研究をするなとか、兵法とは人を動かすためのことを言い、兵法とは自分が動くことを言うそうです。兵六玉という言葉はそういうことだそうです。なるほどと思いました。